

|               |               |    |       |
|---------------|---------------|----|-------|
| 研 究 分 野       | 資源生態          | 部名 | 資源管理部 |
| 研 究 課 題 名     | 最近のサワラの漁獲に関して |    |       |
| 予 算 区 分       | なし            |    |       |
| 試験研究実施年度・研究期間 | なし            |    |       |
| 担 当           | 尾坂 康・千田京子     |    |       |
| 協 力 ・ 分 担 関 係 | 県内沿岸漁協販売部門担当者 |    |       |

〈目的〉

青森県の主要な漁港で最近、急激にサワラが水揚げされている。サワラは、北海道南部から九州、沖縄にいたる全国の沿岸に分布しているが、これまで東北や北海道南部海域での漁獲量は少なかった。最近のサワラの漁獲量の増加は青森県だけでなく、日本海側では秋田県や山形県、新潟県、石川県、さらに太平洋側では岩手県と宮城県でも報告されている。将来、魚食性の強いサワラが増えることで、他の魚類にどのような影響を与えるのか等、サワラについての知見と関心を持つ良い機会として今回、話題提供する。

〈とりまとめ方法〉

各漁協からの情報収集、漁協の水揚げ伝票を基に統計解析、農林水産省統計部の漁業・養殖業生産統計年報から全国のサワラの漁獲データ、瀬戸内海サワラ資源回復計画の報告書等を参考にした。

〈結果の概要・要約〉

○漁協からの伝票集計表から青森県のサワラは、2000 年（平成 12 年）に 7,883 k g であった漁獲量が 6 年後の 2006 年（平成 18 年）には、109,286 k g と 13.8 倍に増加した。

○全国的には、1997 年（平成 9 年）に 2,304 トンと減少したが、2000 年（平成 12 年）に 10,932 トンと急激に増加した。2003 年（平成 15 年）に 6,445 トンと一時減少したものの 2004 年（平成 16 年）には 9,568 トンと盛り返している。1998 年（平成 10 年）以前には日本海西区は 256 トン以下で低迷していたが、1999 年（平成 11 年）から急激に、1,600 トンから 4,000 トンへ、増加が見られた。

○青森県を含む日本海北区は 1999（平成 11 年）年から、太平洋北区は 2000 年（平成 12 年）から、共に増加している。

最初は値が付かなかったサワラも、最近では仲買人を經由して東京や関西の市場に直送され、4kg 以上の大きなものは 2,000 円/kg 以上で取引されている。

○青森県では主に定置網と釣りで漁獲されている。

○サワラは表層を回遊していることから底曳き網にはかからない。

○定置網と釣りで主に漁獲されることから、小型のサゴシ（40cm）以下のサイズは、再放流が可能であるため、資源を管理し易い魚種である。

○釣りで漁獲されたサワラは、発泡スチロールに水氷して収容されることから、傷もなく高値で取引されている。三沢市漁協では 2,500 円/kg 以上の値がつくこともあった。

○サワラは痛みやすい魚であることから、取り扱いで価格に差がつきやすい。

○青森県内では、まだ馴染みのない魚であるが、料理方法の多様さ、美味しさを魚食普及することにより県内消費も可能である。

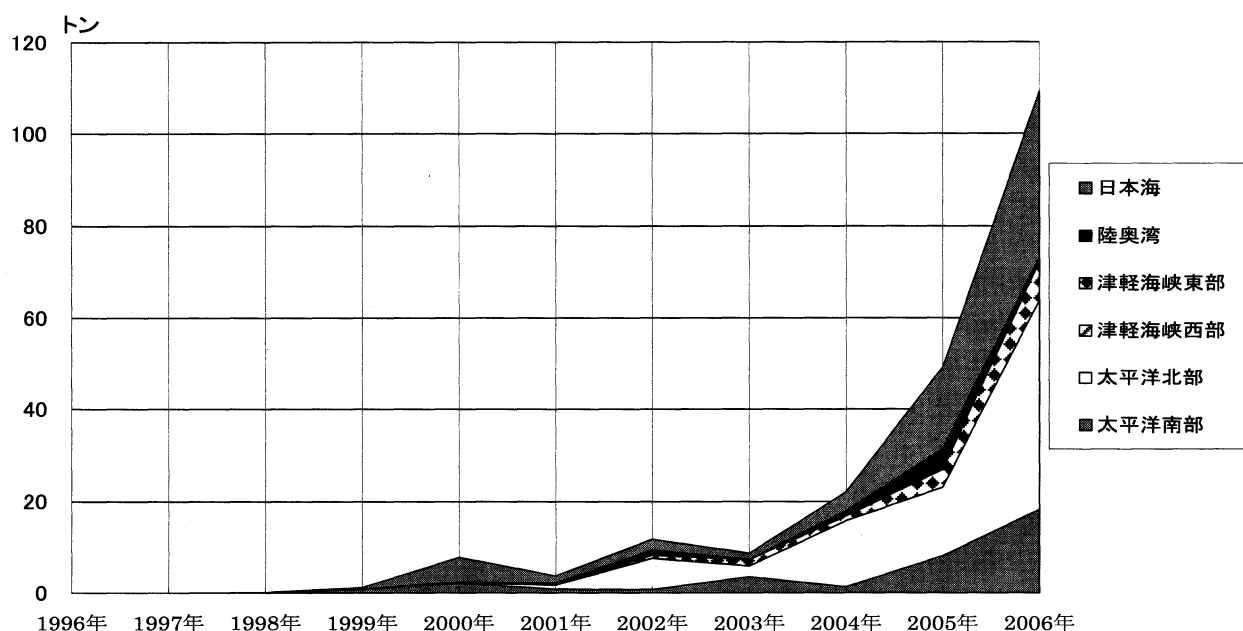
○海区別の単価を見ると瀬戸内海海区が圧倒的に高く、瀬戸内海ブランドして位置付けられている。

【2004 年（平成 16 年）のサワラの単価、単位：円/kg】

| 海区 | 北海道<br>太平洋区 | 太平洋<br>北区 | 太平洋<br>中区 | 太平洋<br>南区 | 北海道<br>日本海<br>北区 | 日本海<br>北区 | 日本海<br>西区 | 東シナ<br>海区 | 瀬戸内<br>海区 |
|----|-------------|-----------|-----------|-----------|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 単価 | 0           | 834       | 728       | 734       | 0                | 708       | 728       | 565       | 1,225     |

（農林水産省統計部 漁業・養殖業生産統計年報 2004 年）

〈主要成果の具体的なデータ〉



#### 青森県海域別サワラ漁獲量の推移

（青森県水産総合研究センターによる各漁協の伝票から集計）

〈今後の問題点〉

- 魚食性の強いサワラの漁獲が増大したことにより、他の魚種の変遷について検証を行う必要がある。
- サワラは、瀬戸内海系群と東シナ海系群の 2 つの系群が存在しているが、最近 5 年間の資源動向は瀬戸内海、東シナ海、日本海西区で顕著な増加傾向にあり、これに続いて日本海北区、太平洋南、中、北区とも順調に伸びている傾向がある。

（瀬戸内海海域では一時資源が低迷し資源回復魚種として位置付けられた。）

- 最近の水温の上昇傾向（地球温暖化）等の海況と関係するの注視する必要がある。
- 他機関との連携を強化し、情報収集を行う必要がある。（高度化プロジェクトへの応募）

〈次年度の具体的計画〉

胃内容を調べることにより、魚食性についての知見を高める。県内外での流通、消費などについて仲買人を通じて調査する。県の漁獲統計にサワラを加える。

〈結果の発表・活用状況等〉

青森県水産総合研究センター内部報告会で発表（平成 19 年 2 月 23 日）